

## 洋一の結婚式

洋一が東京で電気工事会社に勤めていたが、Uターンして来て、仙台で同じ職業に就いていた。

伴侶を見つけ結婚する事になった。結婚式は教会、披露宴はレストラン、会費制、一人六千円で行うと洋一から話があった。

昨今の結婚式は、派手になる一方である。結婚式産業に踊らされ、豪華になり、金のかかる事は夥しい。私も仲人を四回頼まれた。また、親戚知人など多くの結婚式に参列したが、豪華だけで、過ぎてしまえば虚しく、心に残らないこともある。



感激し、感動が長く何時までも忘れられない結婚式に参列した事がある。東京で妻の弟、康則の結婚式だ。私と妻に洋一も招待された。洋一は電子工学院を卒業し、京王サービスに勤め始め、感受性の高い年頃だ。

それは結婚式と披露宴を一緒にした、音楽結婚式だ。あの忘れられない感動を、自分達もと思い続けて居たのだろう。教会の結婚式は神

前結婚式と違い、大勢の人々に祝福される。友人、知人、誰でも参列できる。二人して約一ヶ月前から、週一回教会に通い、神父さんに話を聞かなければならないが、経費は随分安い。

洋一は教会で友人知人、大勢の人々に見守られ、式を終え貸し切りバスで台原のレストランで、和気藹々、気楽に叔父・伯父・叔母・伯母・の持ち寄った品々を加え、披露宴を行った。会費制にしたのは、皆に散財かけたくない心からだ。

このような結婚式を当人達は望むのだが、親のどちらかが、世間体を気にし、反対する。招待された方も実際はどうか分らない。引出物を貰っても、現代の物資の豊富な時代には、たいして役に立たない。  
豪華な結婚式を挙げて、破局することもあるし。

平成十四年八月十一日

